

資料－1 地磁気の説明

偏角とは

地図上の北（真北）と方位磁針の北（磁北）は微妙にずれています。日本では、磁北が真北より西側を指します。この真北と磁北のなす角度を偏角と呼び、「西偏〇度」と表します（図1）。

なお、地磁気の成分には、偏角（D）の他に、全磁力（F）、伏角（I）、水平分力（H）、鉛直分力（Z）があり、その関係は図2のとおりです。

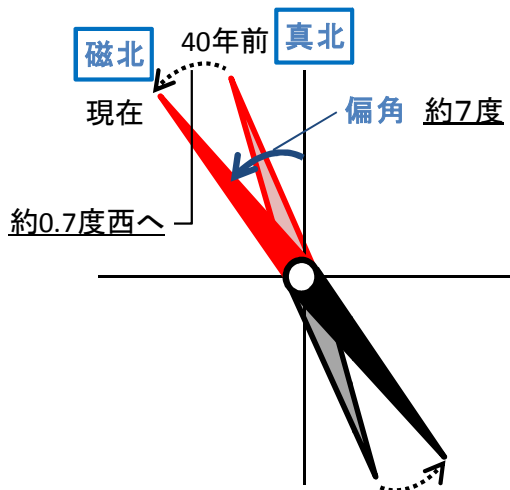


図1 東京周辺の偏角

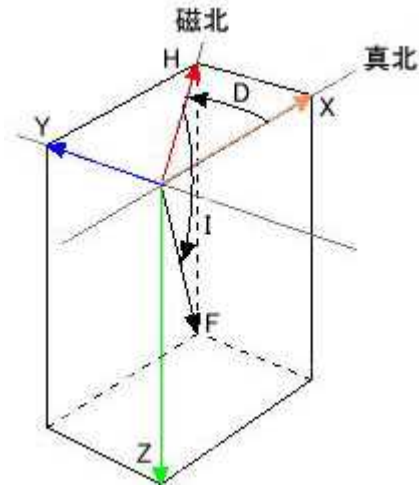


図2 地磁気の成分

偏角は、地理空間情報（地図）と方位磁針を結びつける情報です。偏角は、時間と場所によって異なります（図3，図4）。ちなみに、現在の東京の偏角は約7度ですが、伊能忠敬が地図を作製した200年前は、ほぼ0度（真北と磁北がほぼ一致）でした。

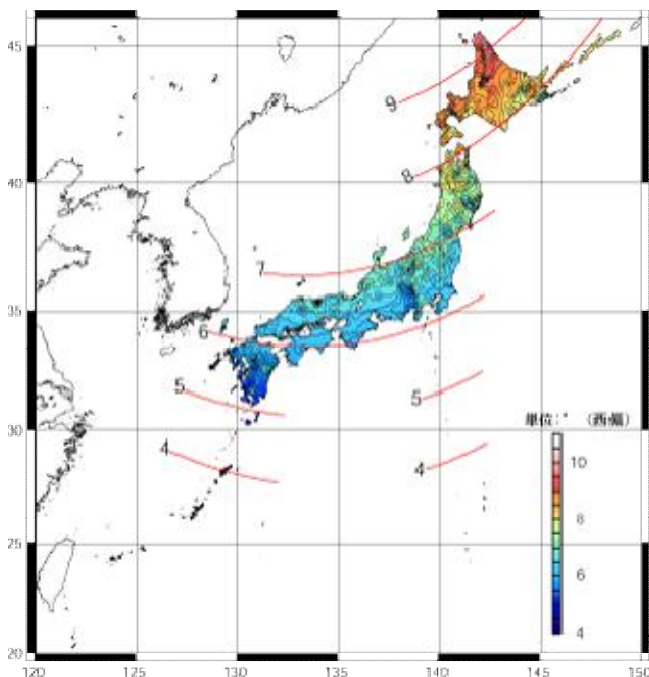


図3 1970.0年値（偏角）

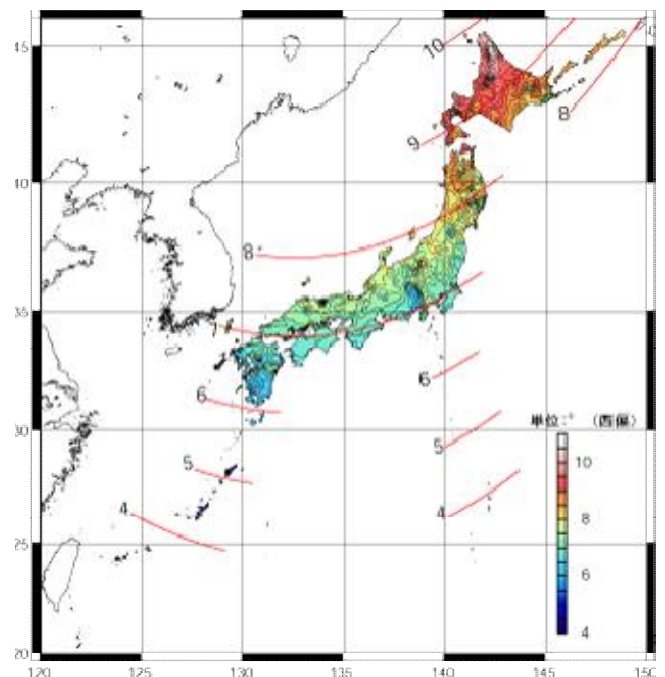


図4 2010.0年値（偏角）